

## 平成30年度 第6回観察会 記録

日 時	平成30年9月14日(金)～9月17日(月) 4日間	
観察地	岩手県 上閉伊郡 大槌町 ⇒ 遠野市 ⇒ 気仙郡 住田町	
講 師	京都大学名誉教授 田中 克 先生、京都大学名誉教授 池上 悅 先生、ドキュメンタリープロデューサー・ディレクター 小西 晴子 氏	
テー マ	遠野のふるさと学校と震災復興の大槌を訪ねる	
備 考	参加者数 20名 + スタッフ3名(西尾・花住・竹中) + 田中先生	記録 西尾

### ◆二つのテーマ

第一は、2016年9月に自作映画にて「三陸漁師の心意気」を熱く語った映画監督 小西晴子氏のアレンジで、「高台移転後の赤浜地区」や養殖漁師の作業などを通して復興の現状を観察した。



民話のふるさと遠野

第二は、本年6月に「遠野のふるさと学校が開く未来：文化資本論序論」のテーマで講演された、京都大学名誉教授 池上 悅先生のアレンジにて、「遠野早池峰ふるさと学校」訪問して文化資本の創生によるふるさと再生の取り組みの現場を見学した。加えて、遠野市に隣接する住田町まで足を伸ばして、気仙川上流域の豊かな自然観察や五葉山火縄銃鉄砲隊演武などの文化遺産を見学した。

### ◆現地講師

#### 大槌町にて

① 大槌学園 松橋校長、②大槌町文化交流センター「おしゃっち」北田竹美センター長

② 赤浜の復興を考える会 川口会長

#### 遠野市・住田町にて

① 遠野早池峰ふるさと学校 佐々木豊 氏、②五葉地区公民館館長 藤井洋治 氏

② 五葉山自然俱楽部事務局長 千葉修悦 氏



大槌湾の蓬萊島

### ◆宿泊先

9/14日 大槌町での宿舎 小川旅館紺館 大槌町小鎌26-131-1 0193-42-2628

9/15日 遠野市での宿舎 民宿とおの、福山荘(フサソウ)、民宿みちのく荘、民泊 菅原幸広 家

9/16日 住田町での宿舎(農家民泊) 千葉敏彦 家、千葉英夫 家、及川しげ子 家、吉田了一 家、泉田紀禾 家  
立花一枝 家、佐々木文一 家 紺野昭雄 家

### ◆第一日 9月14日(金)大槌町でのスケジュール

JAL2183便 伊丹空港 10:20発⇒花巻空港 11:40着、東和「道の駅」にて小西晴子先生と合流、貸切バスにて大槌町へ、バス車内にて弁当昼食。14:30-16:00 小中一貫校大槌学園見学、16:10-17:10 大槌高校訪問、17:15-18:30 大槌町文化交流センター「おしゃっち」見学、19:30 宿舎の小川旅館紺館にて夕食会(大槌町文化交流センター長 北田竹美様・小西晴子様同席)

## ◆第二日 9月15日(土)大槌町でのスケジュール

6:00-7:00 大槌の魚市場見学、7:00-7:30 牡蠣・ホヤ養殖漁師の仕事見学、7:30-8:30 宿に帰り朝食、9:00-10:00 鮭の孵化場見学・街中にある湧水見学、10:00-11:30 蓬萊島上陸&水産加工場見学、12:00-13:00 吉里吉里海岸「さんずろや」にて昼食、13:30-15:00 「赤浜の復興を考える会」の会長のお話を仮設団地集会所で聞く  
15:00-17:00 鵜住居地区の防潮堤と水門現場見学、17:00-18:00 大槌から遠野市内へ移動、18:00-18:30 ※「あえりあ遠野」民話の語り部、18:30~ホテル「あえりあ遠野」にて夕食会 (池上先生、小西晴子氏も同席)、※夕食後は、遠野市内4軒の旅館・民宿・民泊に分宿

### 参加者の大槌町での感想より

◆大槌町で見せていただいた映像は、外の者の私にとっては、動画以上のものになりにくかったのですが、泉田さんのお話は、映像の一コマ一コマに人々の悲喜こもごもの出来事があり、その災害を7年間、前向きに超えて来られたねばり強い人々のつながり合いを強く感じました。

◆小中一貫校の大槌学園、闇を照らす灯台のような「おしゃっち」、赤浜の仮設団地集会所での川口会長、小川旅館紹介の御夫婦、復興半ばの大槌、町なかの湧水、巨大な防潮堤・・・貴重な体験でした。旅をプロデュースして下さった小西晴子先生に感謝します。

◆東日本大震災以来7年と6ヶ月、復興時間の割には復興が進んでいなかった。「赤浜の復興を考える会」川口会長のようにバイタリティのある方が各地におられるといいのに、赤浜のモデルを広げてほしい。巨大堤防に遮られて港の見えない町はかなしい。海辺はどこへ！！

◆震災復興について・・・7年半たっての現状を拝見できる機会を設けていただき感謝します。復興に向けて目に見える形で動き出していることはうれしかったです。但し、復興の形として、上からの指示で巨大堤防が次々作られていることに残念な気持ちと、私たちの税金がこのように使われていることに憤りを感じます。土建屋国家のしがらみにしつかりメスを入れられる国民一人一人の意識改革が不可欠とつくづく感じました。災害を他人事として感じている日本人の精神構造がこのような堤防を作り出しているのではないかと思います。生き残った住民が自ら意見を発し、復興をるべき姿に方向付けていけるよう私たち一人一人が立ち上がりなくてはいけないと思いました。NHK-TV番組のチコちゃんではないですが「ボケッと生きてんじゃねえよ」と日本人一人一人に言いたいです。男も女も関係ないです。

◆東北の震災の復興の状況をこの目で確認でき非常に良かった。その中で赤浜地区の高台移転を進められた川口さんの生の声でその思いを聞かせて頂けたのはとても良かった。大槌学園の小中一貫校の取り組み、学園の校舎の素晴らしいところを見られて感動しました。

◆大槌学園の木造校舎の素晴らしい、児童の生き生きとした顔、地域との連携、学力の向上等、その取組姿勢に感動した。この児童の高校進学先として、大槌高校の改革が必要であると感じられました。

◆魚市場、ホヤ養殖、鮭の孵化場見学で、地場の水産業の実体を学んだ。赤浜の復興を考える会の川口会長の話は、子ども・孫たちには二度とこのような被害に会わせたくないとの信念から、行政が進める巨大堤防建設計画への反対運動に真摯に取り組まれる姿に深く感銘を受けた。すべては地元の判断か優先されるべきである。



大槌町文化交流センターにて

◆小中一貫校大槌学園を見学して・・・なんとすばらしい校舎であることか。広々とした廊下、明るい木造校舎、今までの概念とすべてちがった建て方、理想と思われる建物、校舎内での児童・生徒の一人一人が生き生きと伸び伸びした態度、人に教えられるするあいさつでない、それだけで立派である。校舎の設備・備品の立派さにも驚嘆した。聞くところによると、児童・生徒が自ら考え、学び、自ら求めてやる家庭学習。この子らはどれだけすばらしい人間になるのか楽しみである。大槌町を初めて見学した時は、津波でビルの上に舟が乗り上げ、町全体が瓦礫の山。次に見学した時は、いたるところで工事が行われ、ダンプカー・トラックがはげしく行き交っていた。そして今回は、期待と不安が入り混じる中、巨大堤防がつくられていく。すべてがむなしい気持ちになった。



大槌漁港の魚市場にて

◆今年の5月2日に小中一貫校の大槌学園でピアノ演奏会を開きましたが、今回、ピアノを寄贈した思い出の地を再び訪れることがで喜んでいます。松橋学園長から小中一貫校の目的や現況を詳しく聞き、ふるさと科では、生きる力とふるさと創生を目指し、地域の復興発展と防災教育に力点を置いていることに感動しました。日頃から大槌学園の地産地消の木造体育館をPRしていたので、今回見学してもらってとても嬉しいです。遠野のふるさと学校や自然豊かな住田町にも再度、訪れてみたいと思っています。

◆大槌町を訪ねるのは2回目です。震災後3年目に訪ねたときは瓦礫があちこちに山積みとなっており、案内の方から「ボランティアのみなさんが、手作業で遺体、遺品を丁寧に確かめながらより分けていくので気の遠くなるような時間がかかります。」と説明され胸が痛くなったのを思い出しました。7年目の今回は、美しさを取り戻した海岸線に、14.5mの防潮堤がコンクリートの壁を築いていて、海が見えないようになってしまっていたのに愕然としました。唯一、14.5mの防潮堤をつくらず、高台移転を決めた赤浜地区の「赤浜の復興を考える会」の川口会長の話を聞き、「人間のつくったものは必ず壊れる」「海が見えないところに漁師は住めない」の信念で住民を説得し、予算は下りないと突っぱねる行政と戦って住民全員の高台移転を決めた経過を知りました。孫子の将来に美しい海の見える、海の幸で生きていける赤浜を残してやりたいという強い想いに、ご自身が最愛のお孫さんをなくされているだけに涙を堪えることができませんでした。大槌では、魚市場、鮭の孵化場、湧水地、小中一貫校・大槌学園などの見学もあり、この地に深い絆をもつ映画監督・小西晴子先生のコーディネートと案内があって、地元の人たちの話を聞き、生き生きと働き、学ぶ姿にふれることができたと思いました。



大槌湾に建設中の巨大防潮堤

◆シニア自然学校の行事といえば自然観察会が中心と思っていたので少しイメージがちがったが、被災地を個人で訪ねた場合、震災後の建築物にどれだけ触れることができるのか、また、訪れるようと思うのかと思うと、いろんな方に導かれて体験することができてよかったです。地元産の木材で建物が作られていたが、こんなことが出来るのだと驚くばかりだった。林業が盛んな土地であることを知り、地元産の木材を使いたいとの思いの強が感じられ、素晴らしいかった。

◆この企画をして下さった田中先生、スタッフに感謝し、抽選会をクリアし参加できたことを幸せに思う。大槌学園のふるさと科の授業を見学できず残念。「いのちを守る森



赤浜の復興を考える会 川口会長との懇談

の防波堤」と「14.5mの防波堤」のちがい、「おしゃっち」のPM10時までの市民の活用、いこいの場のあたたかさ、街中にある湧水、残る街の影、「何かするときはここに夫婦できている」と・・・クルミのあく取りをされていたお二人、街の影を生かした公園ができるといいですね。構想をはっきりさせて募金活動をすれば集まらないかな。大槌の漁師、芳賀さんが昨年心筋梗塞を患われた由、「どまんなかオオツチ」は事務の人がいなくなり休業中になっていたのが心配。(個人的ひいきで、時々魚をとりよせていた)赤浜の川口さん、小川旅館紳館の御夫婦は、気になってしまった人。

### 第三日 9月16日(日)遠野市でのスケジュール

8:00-8:30 バス巡回ピックアップ 民宿とおの→みちのく荘→福山荘 ※農家民宿泊の田中先生とスタッフ4名は民宿の送迎にてみちのく荘へ、9:00-13:00 遠野早池峰ふるさと学校訪問(校内参観。藁ない・蕎麦打ち体験後、蕎麦の昼食)、15:00頃 住田町役場到着(荷物はバスにて農林会館多目的ホールに搬入)、15:30-17:00 住田町世田米地区街歩き(ガイド3名3班に分かれて説明を聞く)、17:00-17:30 民泊入村式(住田町農林会館にて受入家庭と対面)、17:30頃 各民泊先へ出発(民泊家庭の車にて送迎)



遠野ふるさと学校

### 第四日 9月17日(月)住田町でのスケジュール

8:00 住田町上有住地区公民館に集合(民泊家庭の車で送迎)、8:20-9:30 住田町民俗資料館見学、9:30-10:20 佐藤靈峰生家跡・平和神宮・八幡神社・玉泉寺・宿場町八日町、10:30-11:20 繩文遺跡小松洞穴・小松峠入口・鏡岩・せせらぎ公園、11:40-12:10 大滝・小滝、12:20 羅象館(昼食:弁当)、13:00 阿弥陀如来像拝観、13:30-14:20 五葉山火縄銃鉄砲隊演武鑑賞、14:30 バスにて羅象館出発、15:50 新花巻駅着、JR新幹線 はやぶさ 110号 新花巻 16:19 発⇒東京 18:56 着、のぞみ 255号 東京 19:20 発 ⇒ 新大阪 21:50 着



遠野ふるさと学校での「藁ない」体験

### 参加者の遠野市・住田町での感想より

◆二日目から加わってくださった池上先生。三日目には民泊家庭で宿主ご夫婦のあたたかいもてなしに感激した。四日目は住田町での各地を見学し、五葉山火縄銃の爆音とともに旅のスケジュールを終えた。盛沢山の出会いや景色が頭の中でかけめぐる。素晴らしい観察会。これから時間をかけて吸収していきたい。

◆私にとって東北の旅は初体験でしたので、何もかも新鮮でした。やはり自然科学の企画は、単なる旅行ではなくて、現地の方とのふれあいを大切にしていて、そこから得られる体験は貴重なものと今回もあらためて感じました。特に民泊では、お世話くださった家族の方から、活字では得られない人のぬくもりに接することができました。そして、笑顔の下に秘められている震災の時の悲しい出来事を聞かせていただきました。



住田町民民俗資料館にて

◆遠野市・住田町にて・・ふるさとを盛り上げるという行動を起こすのには大変な努力がいる。遠野市ではお祭りが見られて楽しかった。佐々木氏・藤井氏の力を底力として町がますます発展してほしいが、あまりにも人口が少ないとと思った。千葉氏の熱心な案内で、住田の人達が歴史から学び、古きよきものを残して、美しい山・川・町を作り上げていることを知った。地元産の木材を生かし、住宅・役所・公の建物をどんどん作っていくのはよい。住田の民泊では、千葉英夫宅にお世話になり、ご主人のいろんな話の中に林業・鉄工業がこの町に豊かさをもたらしていると感じた。一番感じたのは、町上げて教育の有り方、大槌学園の建物、子どもへの思い、先生方の熱意(到達度評価)で子ども達は幸せだと思った。農家民泊は初めての経験でしたが、主人の人柄や奥さんの応対に深く感動した。



気仙川での自然観察

◆遠野のおもいがけないお祭りに遭遇しこれはラッキーだと思いました。早池峰山のふるさと学校での取り組みの説明を受け、「そは打ち」や「藁ない」の体験ができたのは良かった。今回の旅行で住田町を始めて知った。縄文時代の遺跡もあるし、奈良・平安時代には日本の金の一大産地であった歴史を知った。今回の観察会は、色々な事を学ばせて頂きとても良かったです。



住田町世田米地区での街歩き

◆遠野祭りは、各地域からの踊りの参加、その地元の熱意、参加者と見物者的一体感は素晴しかった。住田町の民泊の受入体制は非常に良かった。受け入れ家庭のあたたかい歓迎を受け、家族との交流が出来て楽しい宿泊であった。住田町の自然観察は、千葉さんが一生懸命に準備して下さり、熱意は十分感じられたが少し自己満足感があった。全体的には、好天気に恵まれ、スタッフの皆さまの下見等の事前準備に感謝します。3日目は 遠野早池峰ふるさと学校でそば打ち、わら細工の体験、祭りの準備見学が楽しかったです。午後は大震災の時、後方支援に活躍した住田町の歴史ある町並みを見学しました。その夜は住田町の農家民泊で、どんなところなのかと、期待と不安で緊張しましたが、ホストファミリーの気さくであたたかいおもてなしと、畑からとってきたばかりの新鮮な食材で心のこもった美味しい夕食に感激の3人でした。住田町は、津波に襲われた海岸部の町と歴史的につながりが深く、親戚関係も多く、泊めていただいたお家のお母さんから、震災の時のお話を聞きました。

◆4日目最終日は、岩手大講師・千葉先生から 縄文時代から続く住田町の歴史について 住田町民俗資料館で説明があり、その後、街に出て縄文遺跡、佐藤靈峰生家跡、八幡神社、玉泉寺などを訪ね住田町の歴史を学びました。気仙川では砂金が採れて、奥州藤原氏の平泉黄金文化を支えたそうです。その気仙川のビューポイント一大滝・小滝は緑豊かな樹々に覆われ、幾筋もの滝となってしぶきをあげ、いつまでも河辺に座って眺めていたい心やすらぐ景色でした。周辺の森の中には多くの種類の木々が見られ、森の植生の多様性と生態系の循環が健全であることを示していました。昼食の後、全国有数の火縄の産地であった五葉山守護のための火縄銃の実演を見せていただきました。すごい音でした！4日間の ずつしりと重い貴重な体験とあたたかい思い出を胸に、バスは一路、新花巻駅へー、私はみなさんと別れて、翌日、快晴の空の下、早池峰山に登りました。頂上は360度の展望で 遙か



五葉山火縄銃鉄砲隊の演武

に連なる山並みと強風に耐えて咲く固有種の花々（ハヤチネウスユキソウ、ナンブトラノオ、ナンブカライトソウ）が心に残る山の思い出になりました。

◆又、ずっと行きたい！と思っていた遠野にも行けて、満足感でいっぱいだった。住田町のことは全く知らなかったので、知識が増えてうれしかった。・・が、何故か3日目の夕方には疲労感が強かった。やはり山の中を歩くのとは少し違っていたのかもしれない。ところが、その夜の農家民宿で、古い天井の高い家に入って疲れがなくなった。堀りこたつに足を入れ、夕食に「今、畑から持ってきたの！」という野菜をいただき「いいね！いいね！」を連発した。震災の時の話も聞かせてもらい、体験者から直接聞かせてもらうと、とても迫力があった。これが、民宿に泊まって土地の人と触れ合うメリットだなと痛感した。これからも、一つの観察会の中で、一回は民宿に泊まれるような企画をしてもらうとありがたい。そうすれば、それが特別の旅ともなり、後々まで訪問先との縁がつながるかもしれない。そうすることで、訪れた土地のことに関心を持つ人も出てくると思う。最後の日に、緑の中を歩き、風に吹かれ、川のせせらぎを聴いて、今までの疲労や物足りなさを一掃した。最終日にこの場所への訪問を設定したのは良かった。

◆遠野と住田は、東北の山間部の暮らしとその豊かさを教えてくれました。それは、「金沢」にも通じるものでしょうか。はじめての「蕎麦打ち」「藁ない」体験、おばさんたち、座敷わらし教室など、たくさん楽しみました。民泊もまたはじめての経験、民泊の奥さんは同年配の女性を3人も迎えて、暮らしぶりを見られる感じがしんどかったと・・。でも、仲良くなりました。あらかじめ、来客の年令、食べられないものなどを前もって知りたかったといわれていました。どんどんはれ。

### 参加者より、旅行全体を通じての印象

◆本当にお世話になりました。スタッフの方々の努力に頭が下がります。ありがとうございました。大槌・遠野・住田、それぞれに特徴のある地域、すなわち、それぞれ地域のアイデンティティーを有した土地でした。毎日、ぼんやり生きている私にとってはほんとうに良い刺激になりました。ただ、後期高齢者の私にとりましては、少々タイトなスケジュールでしたので疲れました。このようなタイトなスケジュールの場合、特に早朝からの活動予定のある日は午後の一定時間、休憩できる機会（おひるねタイム等）を設定いただくとありがたいです。上等なホテルに泊まる必要はありません。今回の様に民宿はナイスでした。（泊まった地域・ご家庭が良かったのかもしれません） ですから、今後計画されることがありましたら、民宿などをどんどん組み入れてください。勝手なことばかり書きましてお許しください。



遠野市の秋祭り「獅子踊り」